

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3597800022		
法人名	社会福祉法人 ひとつの会		
事業所名	グループホーム 徳佐あいおい苑		
所在地	山口市阿東徳佐987-5		
自己評価作成日	令和2年10月26日	評価結果市町受理日	令和3年2月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
聞き取り調査実施日	令和2年11月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山々に囲まれた自然豊かな地域性を活かし、ゆっくりのんびり過ごして頂くように支援しています。地元で採れた野菜やお米を使用し利用者に美味しい食事を提供しています。苑内には畑を設け、カボチャや大根などの時期に合った野菜を植え利用者と一緒に収穫しています。今年度はコロナ禍の影響で外出の機会は少ないですが苑内で運動会をしたりおやつ作り、弁当作りなど創意工夫を凝らしながら楽しい時間を共有しました。1日1回、全利用者の笑顔を見る。「1日1笑」をモットーに職員一同、取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の好みを聞いて献立を立てられ、事業所の畑で取れた旬の野菜や家族、近所からの差し入れの野菜等を使われて、三食とも事業所で利用者と職員が一緒に食事づくりをしておられます。食欲を高めるよう季節感を大切にされた献立や、自然の中での喫茶、季節の行事食等、食事が楽しみなものになるように支援しておられます。利用者は、苑内の畑での野菜づくりや収穫に取組まれ、毎食の食事づくりでは野菜の下ごしらえや茹や茹の皮むき、食膳の準備から後始末、保存食(干し柿)づくりなど、できることや得意なことを職員と一緒にしておられます。職員の提案による「研修委員会」を設置され、ケアの向上を目指されて研修内容の検討や研修参加をすすめられ、職員全員で課題解決等に取り組んでおられます。コロナ禍の中、職員は新型コロナウイルス感染症防止についての手洗い方法や3密回避等の実践研修を実施され、感染状況を把握された上で、家族や利用者の不安な気持ちに配慮され、短時間での家族の面会を実施しておられます。地域での行事が全て中止される中、事業所主催の「音楽祭」を開催され、地域の人や家族の参加を呼びかけられて、みんなが笑顔になれる交流の場と時間を提供されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:10. 11. 20)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員は、活き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域特性を活かした理念を作成。事務所内など職員の目の届く所に掲示。職員会議等で職員間で共有している。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示している。管理者と職員は月1回の職員会議やカンファレンス時に理念について話し合っ共有し、「一日一笑」をモットーにして、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティア(歌や楽器演奏、銭太鼓)の来訪などを通じて地域との交流を図っている。自治会に加入、回覧板などで地域の情報を共有している。コロナ禍にあり現在、保育園等の交流はない。	自治会に加入し、回覧板で地域の情報を把握している。コロナ禍の中、地域で開催の行事が全て中止となっている。利用者は、毎月2回来訪の音楽ボランティアの人や12月と2月に来訪の保育園児(13名)と歌を歌ったり、遊戯をしたり、プレゼント交換をして楽しい交流を継続している。事業所主催の「音楽祭(しろくま劇団を招く)」を開催し、家族や地域の人にも案内をし、1時間に亘って利用者と共に歌や楽器演奏を楽しんでいる。地域の人とは散歩時に挨拶を交わしたり、りんごや野菜の差し入れがあるなど、地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等を活用し発信しているが現状、コロナ禍にあり発信できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	<p>○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>昨年の問題点、課題を内部研修を通じて改善に努めた。研修委員会を設置し研修参加への促しや自主性に基づいて風化しないように取り組める機会を設けている。今年も全職員に自己評価を実施し1年の振り返りを行い次回への改善に努める。</p>	<p>管理者は、評価の意義を職員に説明して自己評価をするための書類を職員に配布して記入してもらい、まとめている。職員は、自己評価を日頃のケアを振り返る機会と捉えている。管理者は、職員の満足度の捉え方が個々に違うことを確認しており、今後、研修等で深めていくこととしている。外部評価結果の課題に全員で取り組めるよう「研修委員会」を発足し、研修参加のすすめや内部研修の内容等に取り組んでいる。前回の外部評価結果を受けて、目標達成計画を立て、緊急時の初期対応ができるよう新型コロナウイルス感染症についてや食中毒予防、病気の理解等の研修を行うと共に、移乗方法や手洗い方法、マスクの作り方と利用、3密回避、応急処置等について実践研修を実施するなど、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	
5	(4)	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回、運営推進会議を実施、現在はコロナ禍で実施できていない。実施の際は現状報告、事故、ヒヤリハット、職員研修等を報告している。その際に助言等を頂き今後の支援に活かしている。</p>	<p>会議は毎年、2カ月に1回開催し、利用者の状況や行事予定、活動状況、職員の状況と研修内容、事故ヒヤリハット報告をした後、話し合いをしている。今年はコロナ禍の為、2回(12月と2月)のみ実施した他、4回は資料を送付し、電話での質問や意見を求める形で開催している。参加者からは新型コロナウイルス感染症やインフルエンザの予防への取組みについてや事故防止対策についての意見等があり、サービス向上に活かしている。</p>	
6	(5)	<p>○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>認定調査、請求等、分からない事があれば相談し助言を受けている。運営推進会議には毎回参加頂き助言を受けているが現在はコロナ禍にあり電話対応としている。運営推進会議資料は送付している。</p>	<p>市担当者とは、運営推進会議時や電話、直接出向くなどして情報交換を行い、申請内容や手続き、運営上の疑義について相談をし、助言を得るなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議参加時に情報交換を行い、連携を図っている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会が設置され3か月に1度、開催。その際に勉強会を行い引き続き理解を深め身体拘束ゼロのケアを継続して行く。	職員は「身体拘束廃止に関する指針」やマニュアルを基した内部研修、3か月毎に開催している「身体拘束廃止委員会」でのスピーチロックについての研修や事例を通して学び、身体拘束、虐待の内容や弊害について正しく理解している。スピーチロックについては職員間で注意し合っている。玄関には施錠をしないで、外出したい利用者があれば職員が一緒に出かけて、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現在、コロナ禍にあり感染拡大防止にて内部で行える勉強会のみで虐待防止について理解を深めている。また利用者の普段の会話からの発見に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、苑内に被成年後見人が居たが現在は無い。コロナ禍でもあり内部研修にて職員間で勉強している。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設のハード面、ソフト面、苑として出来る事、できない事をお互いが確認し同意を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの意見については普段からの会話を記録し、支援の反映に努めている。玄関前に意見箱を設置し外部、家族等から意見を求めている。家族面会時にも意見を聴いている。年1回、社協より介護相談員の来訪があり、気づき、助言を頂き今後の支援に活かしている。	相談や苦情の受付体制、第三者委員を明示し、処理手続きを定めて、契約時に家族にも説明をしている。家族からは面会時や運営推進会議参加時、行事参加時(音楽祭)、手紙や電話等で聞いている。意見箱を設置している。コロナ禍の中、3月頃から面会を原則禁止としているが、家族や本人の希望があれば、玄関先に面会場所を設けて検温や手指消毒、マスク着用、3密回避をして、20分程度の面会を実施している。年1回、家族相談員の来訪があり、利用者の意見を聞いてもらい報告を受けている。毎月、家族宛に、事業所便り、利用者の状況を送付して、意見が言いやすいように工夫している。意見や要望は苦情相談記録や申し送り表に記録して職員間で共有している。家族からは、利用者の疾病の状況や状態を心配する相談が多く、その都度、状態について丁寧に説明し、それらを運営に反映している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1か月に1回経営会議にて理事長より苑としての要望、意見を聴き改善等に図っている。職員については月1回の職員会議、年2回の個別面談にて意見、要望等を聴いて改善に努めている。	管理者は月1回の職員会議や月2回のユニット会議、委員会活動(身体拘束廃止、広報、安全対策、環境整備、物品)、の中で職員の意見や提案を聞いている他、年2回、個別面談を実施して聞いている。職員からの意見や提案は月1回ある経営会議に提案して改善できるように取り組んでいる。職員からは、事業所の課題を解決しケアを向上できるよう、研修の内容検討や参加の呼びかけ等を行う「研修委員会の設置」についてや、コロナ禍の中、家族の面会についての配慮や工夫等についてあり、運営に反映している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	無理のない勤務体制を構築し有給取得率は高い。職員会議等で内部研修、業務改善等を話し合い対応している。外部研修にも意欲のある職員には参加頂いている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の職員会議にて研修委員を設置し勉強会などを開催している。法人内研修も月1回あるが参加は職員の自主性に任せている。外部研修には参加したい意向のある職員には進んで参加して頂いている。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として受講の機会を提供している。今年度は、VR認知症プロジェクトに12名、医療と介護の効果的な情報連携に4名、メンター制度等導入支援事業に1名、キャラバンメイト養成研修に1名が参加している。受講後は職員会議時に復命、伝達してもらい、資料はいつでも閲覧できるようにして職員全員が共有している。法人研修は、計画的に月1回、外部講師を招いてあり、参加できる人が参加している。今年度は新型コロナウイルス感染症に参加している。内部研修は、月1回、研修委員会が時宜を得たテーマをもとに、管理者や職員が講師となって、アンガーマネジメントや腰痛体操、身体拘束、外国人と働くということ、病気の理解と予防、移乗について、スピーチロック、倫理観、応急処置、高齢者虐待、外部研修の伝達、事故防止についての実践研修等について実施している。新人研修は法人で1ヶ月間の研修の後、日常業務の中で、管理者や先輩職員が指導者となって、介護の知識や技術を学べるように支援している。法人では資格取得のための研修会を実施している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議の際、他施設、社協、行政などと交流は図られている。また、他施設の祭り、行事などにも参加した際、交流を図っているが現在、コロナ禍であり交流は少ない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前より可能であれば面会、情報収集、家族の意向等を確認している。入所後はアセスメントを行い、全職員が情報を共有しできる限り本人の望む生活が送れるように支援している。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の段階で家族、または本人から、現在の状況、出来る事、できない事等を聞き取り、入所後の支援に役立てている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に家族、本人と面談し、できる事、出来ない事を説明し刷り合せている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者に役割提供(掃除機かけ、洗濯物干し、畳みなど)することで苑での本人の存在意義を確認し、職員とお互い様精神で生活を送って頂いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の通院の同行援助などして頂きお互いが協力して本人を支援している。季節の変わり目には衣類、布団などを持参して頂き最低年2回は面会の場を持つようにしている。月1回、近況報告を家族に送付している。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の方が多く入所されている為、地元の近隣やリンゴ園など馴染みの所には外出していたが現在はコロナ禍であり少ない。面会も地元の友人等の面会は多い。	コロナ禍の中、工夫をして家族の面会や親戚の人、友人、近所の人、知人の来訪がある他、電話や手紙での交流を支援している。馴染みのりんご園にりんご狩りに出かけたり、馴染みの保育園児を招くなどしている。家族の協力を得て葬儀への参加や墓参、外出、外食、一時帰宅、外泊等、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格、身体状況等を良くアセスメントし職員が対応している。利用者間の関係性については職員が間に入り調整したり環境設定等を行い1人1人に配慮している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後でもご来訪または相談があれば支援できるよう関係性の継続を大切にしている。また、地元でのスーパーなどで偶然出会う事があり会話することも多々ある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケース記録、本人の日頃の会話から思いや意向を把握しスタッフ間で話し合い実現できるように努めている。	入居時には事業所独自の「生活領域アセスメント」を活用してこれまでの暮らしの情報や趣味、要望、意向を聞いている。日々の関わりの中での利用者の言葉や表情、笑顔が見られた場面、入浴時等、1対1の場面を大切にしている。その時の対応を記録して、思いや意向の把握に努めている。把握が困難な場合は職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族から聞き取り、生活歴、担当ケアマネからの情報を基に苑での日々のケアに努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子をケース記録に残し申し送り等で職員間で共有している本人さんの状態把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当職員、担当介護職員を中心にケアプランの作成を行っている。本人の日頃からの発言、面会時等、家族の思いを反映して作成している。	計画作成担当者と利用者を担当している職員を中心に、月1回、カンファレンスを開催し、本人の思いや家族の意向、主治医の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。3か月毎にモニタリングを実施し、6か月毎に見直している。利用者の状態や家族の要望に変化があれば、その都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケース記録、職員会議、カンファレンス、申し送り等で情報を共有しながら本人の支援を行っている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアプランに基づき、日々の様子をケース記録に記入し申し送り等でも共有し、必要に応じてプランの見直しを行っている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	徳佐ならではの地域資源を活用しながら利用者支援を行っている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望のかかりつけ医を持ち、定期的に受診、往診をして健康状態の把握と対応に努めている。	本人及び家族の希望するかかりつけ医としている。協力医療機関がかかりつけ医の場合は、2週間に1回、訪問診療がある。他のかかりつけ医の場合は月に1度、他科受診も含めて事業所が受診支援をしている。歯科は必要に応じて往診がある。結果は医師の指示書や往診記録に記録して、職員間で共有し、家族には電話や面会時に報告をしている。夜間や緊急時には「夜間緊急マニュアル」に添って判断し、看護師資格のある職員を通して医師に連絡して適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態を報告しながら看護職と介護職が連携を図っている。必要があれば主治医に報告し指示を仰いでいる。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際には病院関係者、家族と連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、家族の意向、主治医の意見を基に今後の支援について確認を取っている。他施設、病院等と連携を図りサービスが途切れないように支援している。	重度化や終末期にできる対応について、契約時に家族に説明をしている。実際に重度化した場合(食べられなくなった時、点滴注射が必要になった時)は、早い段階から家族の意向を聞き、主治医や関係者と話し合っ医療機関や他施設への移設も含めて方針を決めて共有し、支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリハット・事故報告書は月1回の職員会議で共有、再発防止策を策定している。内部研修を通じ、緊急時の応急手当や初期対応についての勉強会は行っているが全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	事例が生じた場合は、事故報告書、ヒヤリハット報告書に原因や対応、予防策を記録してユニット毎に回覧して周知し、職員会議時に再度検討して一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。消防署による救命救急法とAEDの使用方法の講習を2年に1回、受講している。事故防止マニュアルがあり、内部研修で感染症についてや食中毒、病気の理解等について研修し、移乗の仕方や応急手当、手洗いの方法、マスクの作り方と利用、3密回避等について実践研修を実施している。	・全職員による応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練、通報訓練、消火器を使った訓練を実施している。何も全職員が対応できるとはいえないが、内部、外部研修を今後促して行きたい。地域との協力体制は構築されているが実践はない。	「防災マニュアル」をもとに、年2回(内1回は消防署の協力を得ている)、夜間の火災や風水害を想定した通報訓練、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方を利用者と一緒に実施している。災害時の連絡網には3名(両隣)の協力者があるが、訓練への参加はない。非常用食品(水、食料)は備蓄している。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々のケアを1人1人が振り返り言葉遣い、言葉掛けに対してはより確認しながら対応している。	職員は、内部研修(倫理、言葉かけ)で学び、利用者を人生の先輩として尊敬の念を持ち、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不適切な対応があれば職員同士お互いに注意し合っている。個人記録の取り扱いに留意し、守秘義務は遵守している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の言動を静止せず観察し本人の思いや希望が表出できるよう働きかけ傾聴することに努めている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者1人1人のペースにあった過ごし方ができるように支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、入浴後、外出前は身だしなみを整えている。自分でできる利用者のご自分で選ばれたり化粧をされるなどおしゃれができるように支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事時には利用者、職員が同じテーブルで会話をしながら雰囲気を大切しながら食事をしている。お盆拭きなど利用者に来る事はして頂いている。	利用者の好みを聞いて献立を立て、事業所の畑で獲れた旬の野菜や家族、近所からの差し入れの野菜を使って三食とも事業所で食事づくりをしている。食欲を高めるように季節感を大切に、食べやすいように形態や食器の工夫をして提供している。利用者は、野菜の下ごしらえや茹や筍の皮むき、テーブル拭き、お盆拭き、下膳、食器拭きをしている他、おやつづくり(ホットケーキ、クレープ、おはぎ、お汁粉)では、混ぜる、ひっくり返す、団子を丸めるなど、できることを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じテーブルを囲み、食材や季節の話しながら同じものを食べている。ウッドデッキでの喫茶や季節行事食(おせち料理、七草粥、節句の寿司、土用の鰻、ソーメン流し、年越しそば)、干し柿づくり他、家族との外食など、食事が楽しみなものになるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量は記録に残している。利用者1人1人の状態に応じた食事形態、量、補助食品、メニューを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全利用者口腔ケア実施。また夜間は義歯を預かり週3回はポリドント等で洗浄。コップ、歯ブラシ等も週1回は消毒、洗浄している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し1人1人の排泄パターンを把握し支援している。プラバシーにも配慮している。	排泄状況チェック表を参考にして、排泄パターンを把握し、不安や羞恥心に配慮して、利用者一人ひとりに応じた言葉かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。紙オムツやパットの利用は職員間で話し合い、根拠をはっきりさせ、家族にも説明して了解を得て、適切な使用をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事前には体操を行っている。便秘対策としては水分量を把握、ヨーグルトなどを摂取して頂いている。必要に応じ下剤等を使用している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的には入浴日を決めているが本人の体調、気分等により曜日、時間を変更して柔軟に対応している。	入浴は日曜日を除いて毎日、13時30分から15時までの間入浴できる。順番や湯加減、入浴剤の利用、季節の柚子湯など、一人ひとりの希望に合わせてゆったりと入浴できるように支援している。職員は、1対1になれる入浴時は思いや要望を聞く良い機会と捉えている。入浴したくない人には無理強いしないで、入浴時間を変えたり、職員の交代、言葉かけの工夫をして対応している。利用者の状態に合わせて、清拭や手浴、足浴、シャワー浴部分浴、シャワーチェアの利用等、個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調、体力等に合わせて身体に負担のないように静養時間を設けている。日中は適度な運動、活動を行い夜間良眠できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人ひとりの利用者が服薬している薬の処方箋が確認できるように個人ファイルに管理している。毎食毎の薬が入っているか確認できるように薬チェック表を作成しており遅出、夜勤、配薬者の3度のチェックをを徹底し、誤配予防に努めている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の生活歴、現在の本人さんの状況を把握し出来る事を見つけ役割提供(掃除機かけ、洗濯等)することにより本人の苑での目的・意義を見出している。	掃除(モップで拭く、掃除機をかける)やリネン交換(枕カバー、シーツ、布団カバーをはずす)、洗濯物を干す、洗濯物をたたむ、洗濯物を収納する、カーテンの開閉、繕いもの、畑仕事(苗植え、草取り)、コスモスを摘む、柿をもぐ、野菜の収穫(紫蘇の実、白菜、さつま芋)、客への挨拶、テレビやDVDの視聴、ラジオやCDを聞く、新聞、雑誌、本を読む、写真集を見る、折り紙、ぬり絵、切り絵、貼り絵、絵を描く、習字、日記をつける、食事の準備、野菜の下ごしらえ、テーブル拭き、食事の号令、お盆拭き、下膳、食器を拭く、弁当づくり、おやつづくり、干し柿づくり、餅つき、外食、歌を歌う、カラオケ、季節の壁画(紅葉)づくり、かるた、トランプ、オセロ、坊主捲り、パズル、しりとり、ことわざ、ゲーム(ドミノ倒し、魚釣り)、ボーリング、風船バレー、ラジオ体操、リハビリ体操、テレビ体操、棒体操、口腔体操、脳トレ(計ドリル、漢字ドリル、四字熟語、間違い探し)、季節行事(敬老会、運動会)、ボランティアの来訪、りんご狩り、ドライブ、家族との外食等、楽しみ事や活躍できる場面づくりをして、利用者が気分転換を図り、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍にて現在は外出は自粛している。日頃は近隣を散歩したり苑外活動に参加している。基本、外泊、外出が家族は協力があれば可能であるがコロナ禍でもあり家族にも協力を頂いている。	近隣の散歩やウッドデッキでの外気浴、日光浴、喫茶をする、近くの商店での買物、季節の花見(桜、菜の花、彼岸花、コスモス、紅葉)、りんご狩りに出かける他、家族の協力を得て、葬儀への参加や墓参、外出、外食、一時帰宅、外泊等、本人の希望に添って出かけられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所前に金銭管理について本人、家族と検討し自己管理の難しい利用者は苑で管理している。少額管理可能な方は所持している。外出の際や嗜好品、化粧品などは日用品などの購入は自由に使用できる。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話使用は自由。手紙のやりとりも自由、本人から依頼があればポストに投函している。年末には年賀状を作成し利用者から家族に送付している。(写真入り)		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間(ホール)からは広々とした自然を見ることができ季節感が味わえる。開放的な創りとなっている為、調理場からはにおいを感じ心地良い空間が作られている。	リビングは大きなガラス窓から差し込む自然光で明るく、広々としている。大きな窓からリビングに続くウッドデッキに出ると、野山の豊かな自然が広がり、四季の移り変わりを目にする事ができる。室内には、テレビやソファ、机、椅子をゆったりと配置し、利用者がいつでも横になれるようにベッドが置いてあり、利用者が思い思いの場所でくつろぐことができるように工夫している。壁面には季節の作品が飾ってある。台所からは調理の音や匂いがして、家庭的な雰囲気を感じることができる。温度や湿度、換気、清潔に配慮して居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者間の関係性を考慮してテーブル席を配置したり行事、活動時も親しい方と共に楽しんで頂けるように工夫している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅時に使用していた家具や家族写真などあればお持ち頂いて飾られても良く自由にしてもらっている。	衣装掛けスタンド、衣装ケース、3段ボックス、サイドボード、時計、本、雑誌、ぬいぐるみ、鏡、整容道具等、使い慣れたものや好みのものを持ち込み、家族写真や誕生日カード、保育園児からのプレゼントを飾って、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物干し、畳み、掃除機かけ等、家事活動の出来る方にはして頂き自立支援を促している。家具の配置を工夫し安心・安全に過ごせる環境づくりに取り組んでいる。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム徳佐あいおい苑

作成日: 令和 3 年 2 月 1 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	新人職員が入職した際などには応急手当や緊急時の初期対応は実施しているが忘れていることも多く定期的に開催し全職員が忘れないように努める必要がある。	応急手当、緊急時の対応の定期的な実施。	内部研修で応急手当、緊急時の対応を組み込む。外部研修への積極的な参加。	12ヶ月
2	36	災害時の訓練等は苑内では行っているがその際に地域住民の参加は協力体制が構築できていない。構築を図る必要がある。	近隣住民との協力体制の構築。	年2回の避難訓練参加のお願い。回覧板を回す際にコミュニケーションを図り協力体制の依頼。 また徳佐地域は雪も多い為、その際の雪かき等を近隣住民と協力して行う。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。